



## ○感謝

地域の方が定期的に校長室へ生けに来てくださいます。感謝！⇒

5月17日に県高校総体の壮行式を本校で行いました。グラウンドでの実施を計画していましたが、雨天のため規模を縮小して体育館での実施となりました。

校長挨拶では、4つのK(言葉)をキーワードに話をしました(追加改変あり)。

まず「結果」。試合である限り結果が必ずつきます。結果を恐れることなく、これまで努力してきた成果を思う存分試合で発揮してもらいたい。

次に、「感動」。ひたむきにがんばる姿は周囲に感動を与えます。努力を重ねた日々と自分を信じ勝利をめざしてがんばって欲しい。勝利しても「謙虚」である「気遣い」も大事です…。

3つめに、「感謝」。これまで支え合った仲間。そして保護者、部顧問など指導等に関わった方々、応援してくださる地域の方、県総体開催に尽力されている競技関係者などいろんな人に感謝の念をもってもらいたい。

最後に、「軌跡(過程)」。栄光(勝利)は、伝統をつくられたOBや伝統を受け継ぐ後輩、また感謝すべき人たちに送るものかもしれません。勝負がつく瞬間は一瞬です。その一瞬の喜びのために日夜努力してきたと思います。勝利の瞬間であろうが、負けて試合が終わった瞬間であろうが、一生懸命がんばったものにしか見えない風景があります。その風景は、努力した軌跡と、そこで培ってきたものがあればあるほど違って見えるはずです。その一瞬見える風景が、これからの将来の支えになると思うので、しっかりその風景を見てきて欲しい。

着任式などで話をしましたが、50歳になってから隠岐の島ウルトラマラソンなどいくつかのマラソン大会に出ています。沿道での応援や大会の関係者・ボランティアの人たちへの感謝の気持ちから、ゴール後には振り返って脱帽しお礼の挨拶(お辞儀)をするようにしています。しかし、するようにしているくらいだから、忘れることもあります。忘れた時は、どんなにゴールまでがんばった自分がいても、自分しか見えてなかったことに反省です。

隠岐の島ウルトラマラソンは、感動が駆け巡って島を一周します。最後の10km、空港のある岬付近になると、沿道から「お帰りなさい」と声がかかります。この言葉一つで、疲労がやわらぎ、気持ちが暖かくなります。言葉で返す元気がなく、会釈で応えるのですが、心の中では「ただいま」「ありがとうございます」と言っています。

今、シラスリボン運動が広がりつつあります。私も、ネームタグにつけて入れています。これは、コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛の有志がはじめたプロジェクトです。ホームページによると、シラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動で、リボンやロゴで表現する3つの輪は、地域と家庭と職場(もしくは学校)とのことです。「ただいま」「おかえり」と言いあえるまちなら、安心して検査を受けることができ、ひいては感染拡大を防ぐことにつながるという思いからはじまった運動とのことです。

総体に出場し、いろんな感情や思いを抱えて帰って来る選手に「おかえり」とあたたかく迎える家庭、地域、学校。「ただいま」「ありがとう」と言う選手たち。帰るところがあるからがんばれる。学校においては、それが安心安全な学校、認め合い、励まし合う学校、そんな合いのあふれる学校の姿かなと思っています。

